

補陀洛山寺

補陀洛山寺は、白砂の浜の向こうに広がる太平洋に面して建てられた天台宗の寺院です。つまり、この寺は山々と海の間的位置を占めていました。補陀洛山寺は「補陀落渡海」で知られていました。一種の殉教であるこの風習についての説明は、中庭の反対側にある船の模型のそばにあります。

千手観音

補陀洛山寺にはこの寺の本尊である千手観音の木像が安置されています。高さ 170 センチほどのこの像は、平安時代（794–1185）に制作されました。千手観音像は年に 3 回、それぞれ 1 月 27 日、5 月 17 日、7 月 10 日に行われる法要の間だけ一般に公開されます。

多くの千手観音像と同様、この像にも一本ずつ彫られた腕が千本ついているわけではありません。この像は、敬意を表す仕草として両手を合わせている二本と手で印を結んでいる二本に加え、左右に二十本ずつの手を持っています。左右の四十本の手それぞれが二十五の世界を救うと言われており、全部の世界を合わせると千になるのです。また、この像には顔が三面あり、最もよく見える顔は穏やかな慈悲の表情を浮かべています。

熊野三所大神社と振分石

補陀洛山寺の隣には、過去には浜の宮王子と呼ばれていた熊野三所大神社があります。もともと、一体の社寺複合施設であった補陀洛山寺とこの神社は、19 世紀後期に分離されました。

この神社の境内には、「振分石」と呼ばれる三本の熊野古道の分岐点を示す石柱が立っています。